

有限会社ハロー・テンリュウ

地の利を活かした “中継輸送”と“乗継輸送”で 信頼される輸送企業へ。

静岡県浜松市を拠点に物流サービスを提供する有限会社ハロー・テンリュウ。地の利を活かした事業戦略によって、顧客から信頼される輸送企業へ成長を遂げる。

【会社概要】

- 会社名：有限会社ハロー・テンリュウ
- 所在地：静岡県浜松市中区高丘西3-21-1
- 設立年月日：1997年12月
- 代表者：代表取締役 渡辺 昭人
- 従業員数：37名
- 保有車両台数：22台



浜松市のマスコットキャラクター「出世大名家康くん」と「出世法師直虎ちゃん」をラッピングした「ナオトラック」



本社・オフィス（静岡県浜松市）



代表取締役 渡辺 昭人 氏

「ナオトラック」で 浜松市の素晴らしさをPR

静岡県浜松市の市制100周年記念マスコットキャラクターとして2011年に誕生した「出世大名家康くん」。そして昨年、NHKの大河ドラマ「おんな城主直虎」の放映が決まり、新たに登場したマスコットキャラクターが「出世法師直虎ちゃん」である。どちらも浜松市にゆかりのある歴史上の偉人をモチーフにしたマスコットキャラクターであり、市民はもちろん、観光客にも大いに親しまれている。浜松市では、このマスコットキャラクターを活用して、積極的に地域のPR活動を展開している。

静岡県トラック協会の西部支部と北遠支部では、大河ドラマの放送開始に合わせてマスコットキャラクターをボディにデザインしたラッピングトラックを企画。今年1月には、浜松市内の運送事業者の協力を得て、5台の「ナオトラック」が完成。中京圏を中心に全国を運行する「ナオトラック」が、浜松市のPR活動に一役買っている。

現在「ナオトラック」は5台。そのうちの1台は、有限会社ハロー・テンリュウが保有する車両である。ちなみに同社の「ナオトラック」は、5台の中で唯一、金屏風を背景にマスコットキャラク



「ナオトラック」は地域の振興イベントなどでも使用



浜松市にある「浜松城」

ターをあしらった「純金ナオトラック」。とても鮮やかで、ひときわ周囲の目を引く。代表取締役の渡辺昭人氏は、地域貢献活動の一環として「ナオトラック」の製作を引き受けたそうだ。「ちょうど新車を導入するタイミングで、この話をいただいたので、それならお引き受けすることにしました。当社の『ナオトラック』は、主に京都から平塚市（神奈川県）を往復運行しており、加えて様々な地域の振興イベントなどでも活用されています。ご存じとおり徳川家康と井伊直虎は、群雄割拠する戦国時代に活躍した大名と領主。日本中に、浜松市の素晴らしさと、この二人の出世運をお届けできたら嬉しいですね（笑）」

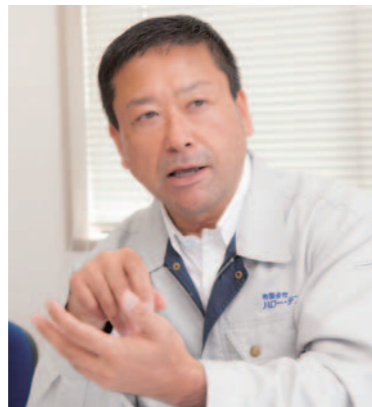
と語られた渡辺社長。今後は交通安全教室といった活動にも協力していきたいという。

“中継輸送”で調達の 最適化、効率化を実現

さて浜松市は、古くから機械産業が盛んで、近年は優れた技術が集積する工業都市へと発展。世界的な企業を多数輩出してきた。そうした地域柄もあり、同社は、自動二輪車のアセンブリ業務を請け負う会社として、1997年に設立される。その後、取引先の要請



常務取締役 渡辺 裕氏



部長 金原 由己秀氏



総務課長 鈴木 友美恵氏



を受けて自動車の部品・ユニットの輸送事業に進出。さらに、輸送業務が拡大するなかで県内4カ所に倉庫を開設する。現在は、主に工場間の幹線輸送のほか、部品やユニットの集荷、保管、配送業務を手がけている。顧客の生産体制に応じて、必要なものを、必要なときに、必要なだけお届けしているという。同社の部長を務める金原由己秀氏は、浜松のロケーションを活かした物流サービスが強みだという。「浜松市は、中京地域に隣接すると共に東京と大阪のほぼ中間に位置しています。つまり、当社は輸送業務において格好のロケーションにあるわけです。各倉庫は、主要な幹線道路や高速道路にアクセスの良い場所にあり、部品やユニットの中継基地として重要な役割を果たしています。サプライヤーからお預かりした各種部品を必要に応じてピッキングして、効率的に配送する“中継輸送”の仕組みを構築しています」

自動車部品は、小さなネジまで数えると数万点にも及ぶ。コスト競争力の強化、生産リードタイムの短縮が叫ば

れるなか、同社は部品やユニット調達の最適化、効率化を提案することで顧客を増やし、業績を伸ばしてきた。

“乗継輸送”で長時間労働を改善

同社の輸送体制においては、もうひとつ特徴的な取り組みがある。それが1年前から開始した“乗継輸送”である。ここ数年、産業界で長時間労働が大きな社会問題として取り沙汰されるなか、同社は中・長距離輸送をドライバー2名で運行する体制を導入した。同社では、京都・三重県と千葉県・埼玉県・神奈川県の中・長距離輸送において、中間地点にあたる浜松でドライバーを交代させて運行。これは協会社3社で連携して実施しているそうだ。「すでに長時間労働は後回しにできない問題です。万一、長時間労働が原因で重大事故が発生すれば、運送事業者は厳しく責任が追及されることになりますからね。もちろん、お客様にも多大なご迷惑をおかけしてしまうことになります。この問題を放置することは、運

送事業者にとって大きなリスクと言えます。当社は企業のコンプライアンスとして、またドライバーの健康面、安全運行という観点から乗継輸送を導入しました。関東と関西のちょうど中間に位置するという地の利もあり、導入後、運行に一切支障はありません。また乗継輸送は、ドライバー不足が深刻化するなかで、応募者に働きやすい職場をアピールすることもできます」

と語られたのは常務取締役を務める渡辺裕氏である。同社は乗継輸送を導入するにあたり、運行シフトの見直し、協会社との協議、顧客への説明など、様々な課題をひとつひとつクリアして実現に漕ぎ着けたという。

ドライバーのキャリア形成を支援する

運送事業に進出しておよそ10年、まだ若い会社ながら、同社はドライバーの安全教育についても積極的に取り組んできた。例えば、ドライバーとのコミュニケーションを大切にしている同社では「ワンポイント点呼」と称して、

毎週、安全運行に関するテーマを決め、運行管理者とドライバーが対話する。これを毎日、点呼時に欠かさず行っているそうだ。また定期安全教育(毎月)として、運転特性、関係法令、モラル(マナー教育等)をテーマにミーティングを実施しているという。さらに月1回、ドライバーを集めて定期安全会議を開催。商品事故や遅延などの報告と対策、動画を活用したKYT講習、外部講師を招いての安全講習会などを行っている。ちなみに、安全教育に使用する教材は、ほぼ自社で作成。現場の実態に即した教育を行うためである。同社の人材教育に携わられている総務課長の鈴木友美恵氏に、人材育成に対する考え方についてお話を伺うことができた。

「組織の生産性は、社員一人ひとりの能力とモチベーションによって高めることができます。しかし、残念ながら運送業界は、決して社員のキャリア形成に熱心とは言えません。そこで当社では、キャリアコンサルタントを顧問として招き、ドライバーのスキルアップを支援す



代表取締役 渡辺 昭人氏

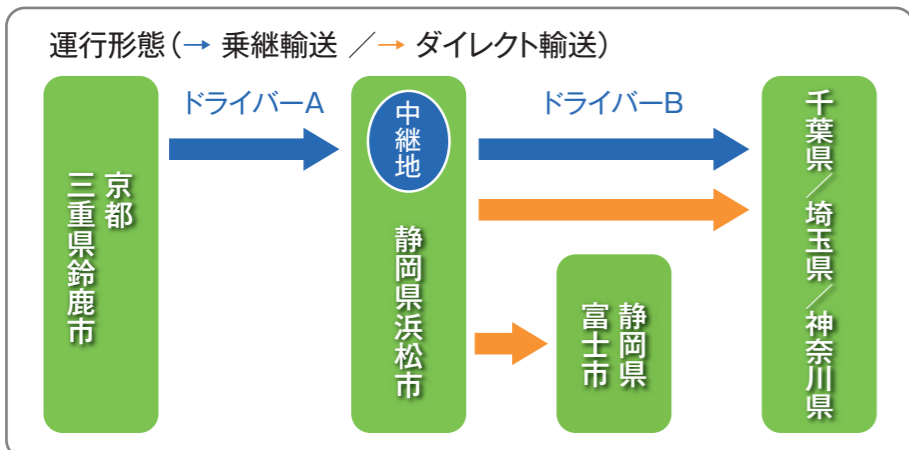
る組織体制や労働環境、教育体制を構築してきました。こうした取り組みの甲斐もあって社員の定着率も高まり、また主体性を持って行動できる人材が育ちつつあります。会社の雰囲気も以前にも増して活気に溢れています。これからも当社は、社員と共に成長していける会社をめざしてまいります」

保有倉庫を活用した物流サービスを提供

地の利を活かした事業戦略、その土台となるコンプライアンス経営と人材育成、さらに地域貢献活動と、着実に事業基盤を築き上げてきた同社。最後に渡辺社長に、今後の展望について、お話を伺った。「振り返ればリーマンショックなど厳しい時期もありましたが、おかげさまで創立20周年を迎えることができました。

今後も拡大・進化する自動車産業の変化、グローバル化に追随し、保有倉庫を活用した事業を推進し、所存です。当社は、アセンブリ業務で培った人材派遣のノウハウもあり、こうしたリソースを上手に活用し、流通加工を含めた付加価値の高い物流サービスを提供していきたいと考えています。また人材育成は、競争力を高める上で必要不可欠な要素であり、業界の3Kイメージを払拭するためにも、より一層充実させていく方針です」

社員と一丸となって顧客を信頼し、信頼される企業をめざしてきたという渡辺社長。これからも同社は、その信頼を糧に、さらに会社を成長させていくことだろう。“出世運”を授けてくれるという家康さんと直虎ちゃんも、誠実に企業努力を続ける同社を後押ししてくれるに違いない。



月1回、開催される定期安全会議



優秀ドライバーの表彰制度



安全教育に使用する教材は自社で作成